平成２７年度第２回京都市総合教育会議 会議録

１　日　　時　　平成２７年９月１０日　木曜日
　　開会　１０時００分　　閉会　１２時００分

２　場　　所　　京都市役所　３階　第一応接室

３　出 席 者　　京都市長　　門川　大作
　　京都市教育長　　在田　正秀
　　京都市教育委員会委員　　奥野　史子
　　京都市教育委員会委員　　秋道　智彌
　　京都市教育委員会委員　　鈴木　晶子
　　京都市教育委員会委員　　星川　茂一
　　京都市教育委員会委員　　高乗　秀明

４　関係者等　　京都市ＰＴＡ連絡協議会
　　会　長　　奥野　貴史　　（上京中学校）
　　副会長　　中村　照代　　（中京もえぎ幼稚園）
　　久保川　芳弘　（二条城北小学校）
　　村上　久明　　（西京高等学校）
　　岡　千栄子　　（呉竹総合支援学校）

　　人づくり２１世紀委員会
　　幹事長　　新家　忠弘
　　（京都市ＰＴＡ連絡協議会 前会長・陵ヶ岡小学校）

５　関係職員　　京都市副市長　　藤田　裕之
　　京都市子育て支援政策監　　江口　尚志
　　京都市総合企画局長　　岡田　憲和
　　京都市教育委員会教育次長　　市田　佳之
　　京都市教育委員会理事　　中村　公紀
　　京都市教育委員会教育企画監　　清水　稔之
　　（※ 出席者のうち，局長級のみ記載。）

５　傍 聴 者　　０人

６　議事の概要

（１）開会

１０時００分，門川市長が開会を宣告。

【門川市長】

京都市ＰＴＡ連絡協議会，人づくり 21 世紀委員会の代表者をお迎えしての拡大版総合教育会議を開催できることを大変うれしく思う。また，教育委員の先生方には日頃からご支援いただき御礼申し上げる。

先日，全国中学校ソフトボール大会 女子の部において，樫原中学校のソフトボール部が見事優勝された。また，文部科学省から全国学力・学習状況調査の結果が発表された。京都の市立小中学校では約２割が私立の学校へ進学する中，全国平均を大きく上回る結果となり，他府県から京都市のスポーツや学力向上に関する取組について多くの問い合わせをいただくが，京都市ではスポーツや学力向上はもとより，豊かな心と人間性を育むことに最重点を置いており，ＰＴＡ・保護者の協力による地域と学校が一体となった京都ならではの取組が，こうした結果にも繋がっているのだと思う。足りないところを批判する関係ではなく，足りないところを足し合い，良いところを伸ばし，高め合う。そして，子どもを中心に学校運営協議会やＰＴＡが一丸となって取り組んでいる成果だと思う。大変ありがたい。

また，日本全体では人口減少が課題となっている。これは日本でいまだかつて経験したことのない人口急減社会である。

しかし，京都は明治初めに人口急減社会を経験している。その当時の先人たちは，「子どもをしっかりと育むことが未来に繋がる」ということで，日本で最初の地域性の学校を設立した。この原点は今も大事にしなければならない。人口減少社会に対応するためには，しっかりと子どもを育む。そして，その仕組みをつくることが重要である。そのためにも，教育という狭い枠にとらわれず，まちづくりも含めた広い意味での教育についてもご意見をいただければと思う。同時に，京都市ＰＴＡ連絡協議会及び人づくり２１世紀委員会の活動から見られた教育の課題や新たな提案をいただければと思う。

【奥野会長】

本日は全国ではじめて開催される拡大版総合教育会議に，保護者の代表である京都市ＰＴＡ連絡協議会の役員をお招きいただき御礼申し上げる。

さらに，教育委員のみなさま，京都市役所の職員の方々には子どもたちの教育に関して全市を挙げて取り組んでいただいていることに御礼申し上げる。

本年度の京都市ＰＴＡ連絡協議会では「Let`s get together！」「さあ みなさん，ご一緒に！」をテーマに，保護者だけでなく，校長先生をはじめ，教職員や地域のみなさんと一緒に「子どもたちを育てていこう」「見守っていこう」ということで活動している。私たち

ＰＴＡは「子どもたちに何ができるのか」ということを常に考えながら活動させていただいている。

また,「地域の子どもは地域が育てる」という観点から，保護者と地域との関わりがいかに大事かということを考えながら，地域と学校を繋ぐ架け橋として活動したいと思っている。今日このような場を設けていただいたことを感謝するとともに，勉強してまいりたい。

【門川市長】

教育というのは，保健・医療・福祉あらゆる課題と融合していかなければならない。保護者やＰＴＡ，地域，企業，経済界など，あらゆる力を得て地域社会を充実させ，全ての方が子どもたちのために協力するような体制を組まなければならない。したがって，首長との合同の会議である総合教育会議に，京都市ＰＴＡ連絡協議会・人づくり２１世紀委員会の方に参画いただくことで，様々な課題を率直に議論し，教育行政，さらには京都市政にしっかりと活かしてまいりたい。

（２）意見交換

【新家幹事長】

保護者の意見を聞いていただける場を作っていただき感謝の思いでいっぱいである。

昨年度，京都市ＰＴＡ連絡協議会の会長をさせていただき,「子どもが好き，学校が好き，ＰＴＡが好き」をテーマにＰＴＡ活動をさせていただいた。

これまで自分の子どものことしか考えられなかった私が，ＰＴＡ活動を通して全ての子どもを好きになり，また，学校，ＰＴＡ，さらに地域のことが大好きになった。こういった感情を実感していくことがＰＴＡ活動の第一歩ではないかと思い，これまで様々な活動に取り組ませていただいた。

ＰＴＡ活動を通して非常にうれしかったことがある。あるお母さんから私に電話があった。普段はとても恥ずかしがり屋で授業参観では手も上げられない自分の子どもが，ＰＴＡ活動を頑張っているお母さんの姿を見て学級代表になったと。保護者が頑張っている姿というのは，子どもにも伝わるのだなと感じた。

しかし，ＰＴＡ活動を頑張り過ぎて，そこで燃え尽きてしまう方もおられる。さきほど市長から，まちづくりを含めた広い意味での教育というお話があったが，ＰＴＡ活動で燃え尽きた人が地域の活動にも協力いただけるよう，ＰＴＡと地域を繋げる役割を担っていけないかと考えている。学校と地域を繋げる学校運営協議会を活用し，具体的に何かできないかと考えている。

【奥野会長】

私の地域では学校運営協議会から本の読み聞かせ等のボランティアに熱心に来ていただ

いているが，あまりにも地域の方が熱心なので，保護者が一歩引いてしまっている。ただ，地域の方の協力は必要であり，学校も必要としているのはわかるので，保護者が地域に対して関わっていくことができるよう，ＰＴＡとして取り組んでいきたい。

また，学校運営協議会を全小学校に設置していただき，一番早く設置したところで１０年経つ学校もある。各学校で様々な取組をしていただき学校が身近な存在となったが，次のステップに進む段階に来ているのかなと感じている。

【岡副会長】

総合支援学校について，支援学校のある地域では，呉竹総合支援学校だけでも小学校が３４校，中学校が１４校あるが，学校運営協議会を開くとなると学校がある地域の方にしか参加してもらえないのが現状である。そこで，他の学区の方にも参加していただけるよう行事等の企画段階から地域の方に関わっていただくようにした。そういった取組により学校運営協議会への理解が深まりはじめているところ。この関係をもっと密にすることで，地域との連携を強くしていきたいと思う。

【村上副会長】

高校生は入試制度改革によって自由に学校を選べるようになり，必ずしも自分の地域の高校に通わなくなった。遠方から通学する生徒もおられ，地域に馴染みのない生徒がいる状況である。一方で各学校は「地域に根差した学校」も目指すことも大半であるので，生徒が地域に何か貢献できるように考えていかなければならないと思う。例えば，部活単位や生徒会単位など，生徒を代表して地域に貢献，恩返しをする活動等を実施し，地域の方に支えていただいていることを実感してもらいたいと思う。

また，通学時の自転車マナーで地域の方にご迷惑をおかけすることをよく聞くので，ＰＴＡでは自転車マナーの啓発に取り組んでいるところ。高校生となるとなかなか指導が行き届かないが，引き続き啓発活動に努めてまいりたい。

【中村副会長】

幼稚園では，ＰＴＡ活動や親子行事を通して保護者間の関係が密になるが，園児数の減少や預かり保育の充実によって，保護者同士のコミュニケーションの場が減少してきているという意見がある。今後もコミュニケーションの場が少なくなるとＰＴＡ行事や親子行事の見直しが必要になってくるのではないかという意見も出ている。

【久保川副会長】

学校運営協議会の方々には，教員や地域・ＰＴＡの方と一緒になって子どもたちを育んでいただき，本当に心強く思っている。今後も熱いご支援をいただきたい。

【門川市長】
非常に熱心なＰＴＡ活動と地域活動をしていただいているが，両者をどう繋いでいくかが課題である。また，人口減少社会にどう対応するか。それぞれの地域社会が「子どもの学び育ち」を一番大事にすることが重要であり，地域や家庭がすべての子どもは「地域の宝・社会の宝」として育んでいく仕組みづくりをしていくことが重要である。
学校運営協議会を設置して１０年が経つ学校もあるが，今後の取組について教育委員会とも相談し，オール京都の課題として取り組んでまいりたい。
また，「子どもの学び育ち」について，子どもの視点に立ち，学校や家庭で学んでいることを，社会に出た時に活かすことができるように繋いでいかなければならないと思う。学校で学んだことが大学受験・高校受験のための学びになってしまっている。この問題を解決するためには，子どもが学校で学んだことを社会生活に活かすために，教職員が専門性を深化させ，未来の社会を見据えて子どもを育むことが重要である。
そうした課題も踏まえ，委員として参画している新しい学習指導要領の策定に向けた中央教育審議会において，京都市の実践を紹介した。京都市では学校で学んだことを生きて働く知恵とするため，生き方探究館や，中学校のチャレンジ事業などの様々な取組を先進的に実施しているが，こういった取組を発展させていかなければならないと感じている。さらに，「子どもの学び育ち」に学校運営協議会を中心とした地域が学校教育にどう関わっていくか。地域と教育委員会が協力して取り組んでまいりたい。

京都の最大の宝は地域力であり，それを支えていただいている人間力であると思っている。町内会に加入する割合は３割だが，ＰＴＡに加入されない方はおられない。ＰＴＡ活動はあらゆる社会貢献活動の登竜門である。社会福祉協議会や体育振興会，女性会などの行事に参加させていただいても，みなさんＰＴＡを経験されている。加入されている方の年齢に差があるかもしれないが，世代間を繋ぐのが学校運営協議会であり，人づくり２１世紀委員会であると思う。

【新家会長】
地域で活動している方とＰＴＡ活動している方の年齢に差があると感じている。その差をどう埋めていくか。人づくり２１世紀委員会としても，地域とＰＴＡを繋げていかなければならないと感じており，その課題に取り組んでいきたいと思う。
また，人づくり２１世紀委員会に１１４団体が所属しているが，それぞれの団体は様々な能力を持っておられ，まだまだ能力が眠っているのではないかと感じている。そういった団体の能力を学校や地域で活かしていただけるような人づくりをしていきたいと思う。

【門川市長】
さまざまな地域行事に参加させていただいているが，地域の祭などでは中学生が司会を

している。中学生生徒会サミットでも中学生が全てを仕切っている。子どもが役割を与えることで子どもをお客さんにしない，そうすることで子どもたち自身が達成感を得られる。その経験をした中学生は１０年後には大人になり，地域の担い手になっていく。

【中村副会長】
　子どもたちは地蔵盆を毎年楽しみにしている。地蔵盆が始まる合図の鐘を鳴らす役を子どもがやりたいということで，子どもたちがそれぞれ役割を把握し，みんなで鐘を鳴らしにいく。私の地域では自然と子どもたちに役割を与えている。

【岡副会長】
　学校教育の全てにおいて子どもに役割を与えることはできないと思うので，地域行事においても役割を与えていきたいと思う。
　また，保護者の方がＰＴＡを卒業した後，地域とどう繋がるかが課題である。私自身３月でＰＴＡを卒業するが，地域団体が３０あり，ほとんどの方がおやじの会に入っているので，私もおやじの会に入り，地域との繋がりを広げていきたいと考えている。

【奥野会長】
　地域の方のパワーはすごい。そのパワーに PTA 活動をしたことが無い保護者は圧倒されている。地域のみなさんは仲良くやっておられるのでその中に入りづらい気持ちも分かる。地域の代表をやっておられるのが６０代から７０代，ＰＴＡ会長は３０代から４０代の方が多く，５０代の方が少ないため，年齢差を埋めるのがむずかしい。
　また，地域では次の代表者を誰に譲ればいいのかわからないという意見があった。次に頼むこともできないということで，みなさん危機意識を持っている。
　私自身いろいろな行事に参加するので地域とＰＴＡとの関わりを持たしたいが，年齢差があり議論が噛み合わない。何とかしなければならないと考えている。

【新家幹事長】
　私の地域も同じ状況である。次の世代がでてくるのか。年齢の差をどう埋めていくのか。ＰＴＡを卒業して地域の団体に加入する仕組みがあれば，スムーズに地域に溶け込むことができるのではないかと思う。

【秋道委員】
　学校・地域・ＰＴＡが繋がるモデルとなるような地域もあるが，京都市内においては地域が担っている多様な機能があると思う。そうした中で，寝屋川の事件において私が感じているのは地域が見回りをすることや，防災への取組など，自治会として持っている機能をみなさんはどのようなイメージをもっているのか。地蔵盆での取組や自治会の行事の話

以外に何かほかに繋がりをつくるアイデアがあれば教えていただきたい。

【奥野会長】
「学校統合している学校」「学校統合していない学校」では，地域の役割や組織のあり方が大きく違う。統合校ではそれぞれの学区に会長がおられ，それぞれ取組が違うが，ＰＴＡは一つである。ただし，ＰＴＡは何処の学区にも入らないため，浮いた存在になる。浮いた存在だからこそ何とか地域と繋ぎたいと思っている。特に市内中心部は統合校が多く，地域との繋がりが難しい。統合していない地域は比較的スムーズにＰＴＡと繋がっているのではないかと思う。

【村上副会長】
東山開睛館が開校する際，ＰＴＡの立ち上げに携わった。各学校にそれぞれのＰＴＡ・自治連合会があり，統合に関してさまざまな議論があった。地域に偏りが出ないよう，各学区から小学校担当，中学校担当，地域担当の３人の理事を任命した。８学区あるため，現在は２４人の地域理事でＰＴＡ活動をしている。ＰＴＡ活動を通して親同士の繋がりができた。

【中村副会長】
吹田市ではイギリスで始まった「ブックスタート」に取り組んでおられる。「ブックスタート」とは赤ちゃんとその保護者に絵本や本を配布し，読み聞かせを通して親子関係を育むものである。幼稚園では図書館司書のボランティアの方に読み聞かせをしていただいており，私たちも地域の方と触れ合う機会がある。小さい時から地域の行事等に触れ合うことで，保護者と子どもが地域に抵抗なく溶け込むことができるのではないかと思う。

【久保川副会長】
私の地域も統合校であるが，地域の方は学区ごとに物事を考えることが多く，子どもと地域行事を学区で分けて考えてしまう。学区は地域ごとにあるが，学校は地域に一つという意識で行事等に取り組んでいただけると，ＰＴＡも地域に入りやすいと思う。

【高乗委員】
私もいくつか学校運営協議会の委員をさせていただいたが，京都市と一口に言っても京都は地域に多様性がある。例えば、私の地元の小学校区は創立３０周年になるが，地域の活動を４０代から６０代の方が，ＰＴＡは３０代から４０代の方がされているが，地域のリーダーの多くが学校創立期とその後のＰＴＡのリーダー経験者であり，年齢の差はあるがうまく繋がっている。
様々な地域がある中で，この場で私たちが一つの解決策を出すと言うよりも，それぞれ

の現場の知恵を尊重し、活かしていくことが重要であると思う。それぞれの地域の課題は，すでに地域の方が答えをお持ちではないかと思うので，地域とＰＴＡが課題を共有することで，それぞれの課題の解決になるのではないかと思う。

【奥野委員】

本日みなさんが議論されている内容はものすごくレベルの高い内容で，他の地域ではここまでの議論に到達していないと思う。世代間を繋ぐ議論においては，地域活動やＰＴＡ活動に参画していない方が多いので，そういった方々にも参画していただけるよう，活動に関する情報を発信していくことが大事であると思う。これまでから取り組んでいただいていると思うが，引き続き取り組んでいかなければならないと思う。

もうひとつ考えないといけないのは，子どもがいない家庭に「子どもがいる親の意識」「子どもがいない親の意識」のギャップを埋めることであると思う。そのギャップを埋めるにはお互いが思いやることが大事だと思うが，子どもがいるからＰＴＡ活動や地域活動に参加するのではなく，子どもがいなくてもＰＴＡ活動や地域活動に参加してもらうのが大事だと思うので，多くの方が地域に入ってもらえる雰囲気を作るのも大事ではないかと思う。

【鈴木委員】

京都市では先進的に学校運営協議会の設置に取り組んでこられ，全国的にも注目される中，ＰＴＡの方々の活動が今回の会議で見えてきてとても勉強になった。

今，人間には地縁があって血縁があり，そして学校縁があると思う。学校を通して繋いだ縁により，地域の方が大人になり，親となって地域の達人になっていく。子どもの学び育ちは，子どもから大人，そして年配の方や地域の達人まで全体をみなければならないなと改めて感じた。

その中で，中央教育審議会において門川市長が「学校の学びを地域の学びに」ということをご説明された。私は知性研究をしているが，もう一つの知性というのがここ 20 年くらい非常に注目されている。それは「暗黙知」である。ある人のやり方を見て，物事の運び方や思いの汲み取り方など，目に見えないところでいつのまにか学んでいるということ。この「暗黙知」をいかに育てるか。多くの人と出会い，多くの人の人となりや生き方を見て学んでいくことを考えると，市長がおっしゃっている「学校の学びを地域の学びに」とはまさに「暗黙知」であり，それは地域の行事やお祭り，弔いなど，様々な行事を通して学んでいる。京都にはたくさんの資源があるので，弔いやお祭りなど「学校縁」を通した「暗黙知」を育てるという方法を，京都ならではの取組として発信していくことができるのではないかと思う。私は今がチャンスではないかと思って話を伺っていた。きっといろんな取組ができると思うが，それを形にしていければと思う。

【門川市長】

我々が市政の中で悩んでいること，それぞれの地域で悩んでおられること，同時に可能性を感じていることが同じだと感じた。

老人クラブ連合会のすこやかクラブ京都の方にお話をうかがうと，最大の課題はやはり世代間の差と聞いた。地域の安心安全，子どもの見守り，社会福祉，自治会など，多くの取組にすこやかクラブ京都の方々にご協力いただいているが，７０代から８０代の方が大半である。この課題に我々団塊の世代がどう関わっていくか。地域社会に関わっていただく人を増やして，どう地域と繋いでいくか。

京都市では災害が起きた際の避難所として４２１箇所の避難所指定をしている。それぞれの地域において，高齢者・女性・子どもの視点，そして地域の特性を活かした避難所運営マニュアルを作成していただき，訓練を行っていただいている。自治連合会がしっかりしているところでは訓練への意識が高い。

学校運営協議会の取組が子どもの学び育ちに繋がり，子どもたちをよりよい町衆に育てる。さらにＰＴＡの方たちが求心力をもって地域活動に参加する人を増やしていただきたい。そのきっかけづくり，仕組みづくりに悩んでいるわけであるが，積極的に挑戦していただき，成功事例を作ってほしい。

【星川委員】

家庭が孤立している社会状況がある中で，ますますＰＴＡの役割が大きくなってきていると思う。本日の議論で感じていることは，ＰＴＡはクラス単位を大事にすることが基本ではないかと思う。

学校単位で活動することはもちろん大事で，そこから地域とのつながりを持つこともあると思うが，やはり，８万世帯の保護者がいて，その親同士をどう繋げていくかと考えたときに，クラスや学年の保護者が先生を中心にどう繋げていくか。教頭先生が取り組んでおられる学校もあると思うが，ＰＴＡは，保護者と先生とが取り組んでいくものであり，自分たちのクラスの子どもたちと先生と親をどう繋げていくか。そこにもう一度目を向けていく必要があるのではないか。クラス単位の繋がりが大事なのではないかと思う。小さい単位で親同士が繋がることが，地域活動へ参加していただくことにも繋がるのではないかと思う。市全体・学校全体ももちろん大事だと思うが，小さい単位で取り組んでいくことも大事だと思う。

【奥野会長】

幼稚園，保育園で仲の良い保護者の関係は卒業後も続く。なぜ小学校に上がると関係性が薄れるのか。それは幼稚園，保育園では毎日お迎えの時に顔を合わせて話をすることの積み重ねにより関係性が続くのではないかと思う。小さい単位を大きくしていくやり方が正しい進め方なのかと感じた。

【門川市長】
　小さな単位を大事にしながら大きな単位に取り組んで行く。そして，大きな単位が小さな単位を支援する。これが大事である。

（３）本市教育行政に対する京都市ＰＴＡ連絡協議会及び人づくり２１世紀委員会からの提案について

【久保川副会長】
　昨年，小学校給食における和食の検討会議に参画させていただき，学校給食における取組や課題などについて勉強させていただいた。その中で，子どもたちに伝統ある和食を提供していただくには学校単位だけでなく，家庭でも和食の良さを伝えていくことが必要ではないかという意見があった。そうした意見をもとに，給食を保護者の方に広く知っていただくため，給食のレシピを学校のＨＰ等で情報発信していただいたり，給食試食会を年１回実施していただいているが，より食育の充実を図るため，給食試食会の回数を増やしていただければと思う。
　また，全小学校に栄養教諭が配置されていないと伺った。やはり食育を進めていく上で栄養教諭を全校に配置することが，食育の充実に繋がるのではないかと感じた。

【奥野会長】
　高校入試制度改革から今年で３年目になり，各高校の特色が出始めている。生徒の中には普通高校に通う子どももいれば，障害を持つため総合支援学校に通う子どももいる。そういった障害を持った子どもたちにどういった教育をしているか毎年お伺いしているが，今年はじめて高校の先生方との懇談の場を要望させていただいているところである。
　また，府立清明高校が今年度開校したが，志願者が定員の３倍とニーズはすごく高いと思っている。定時制高校のニーズが高まる中，京都工学院高校が２８年度に開校する関係で，伏見工業高校を定時制の高校にするという構想があるとお聞きしている。府立清明高校は北部にあるため，南部にもそのような定時制高校ができるということは，中学生の子どもを持つ親としてはありがたい話だと思っている。是非，他にはない素晴らしい学校になるように取り組んでもらいたい。

【村上副会長】
　文部科学省のスーパグローバルハイスクールに，西京高校，堀川高校が指定されている。それに加えて，紫野高校には英語力の育成や英語活用能力の強化を図るアカデミア科が設置されている。日吉ケ丘高校には平成２８年３月に英語村が開設される。すべて英語をキーワードとして取り組んでおられる。

これからグローバルな人材を育成していくという中で，京都は観光都市世界一であり，外国人の方がたくさん来られている。これは格好の教材であり，チャンスではないかと思う。高校生の時から国際感覚を身に着けていくことが大事である。例えば，国際的な教育プログラムである国際バカロレアを公教育の中で教えるのは難しいかも知れないが，基本的な考え方等を高校の授業の中で是非実践していただきたい。

また，京都工学院高校の開校に伴い，塔南高校を洛陽工業高校の跡地に移転・再編され，新しい普通科系高校を創設されるとお聞きしている。塔南高校には教育者を養成する教育みらい科が設置されているが，ほとんどは普通科の生徒である。他の市立高校で普通科を設置されているのは堀川高校，紫野高校，日吉ケ丘高校，西京高校の４校であり，他は専門学科の高校である。これから新しい普通科系高校の内容について検討されることと思うが，国際的な教育プログラムも取り入れていただけたらと思う。新しい高校，新しいまちづくりを京都市の教育がリードしていってほしい。

【岡副会長】

子どもを取り巻く課題について，最近はシングルマザーや共働き家庭が多く，学校と保護者との関わりや，家族で過ごす時間，ご近所付き合いが少なくなってきている。星川委員がおっしゃったように，孤立した保護者を作らないために，参観日に参加してもらうよう働きかけをしているが，さらに取り組んでいきたいと感じた。

また，地域ぐるみで子どもの安全を守るため，山科では親の帰りが遅い家庭の子どもを見守るＮＰＯが設立されてきている。そういう団体が増え，障害を持った家庭においても安心して生活できる場所が増えればいいなと思う。

昨今のネット社会において，スマホやゲームを使用するルール作りが定着していない。ルールを決めるのは家庭だけでは難しいと思う。やはり学校も含めて徹底したルール作りをしていかなければならないと思っている。子どもに届いたメールがすべて親に届くように設定している親もいるので，そういったルール作りが徹底されればと思う。

【中村副会長】

京都市では，子育て支援の充実を図る「読書ノート」が作成されており，市立幼稚園では約２年前から取り入れていただいているが，私立幼稚園にも配布し色んな方に行き届くようになれば，地域の活性化に繋がるのではないかと思う。

さらに「ブックスタート」を京都市においても取り入れてもらえないかと思う。そういった取組が子どもの将来に繋がるのではないと思う。

【新家幹事長】

いじめや不登校の悩みを持つ保護者は，保護者同士の繋がりが希薄なケースが多い。そういった孤立している保護者に対してＰＴＡからも働き掛けをしていこうと思っているが，

様々な家庭状況があり難しく感じている。そういった家庭にはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに学校へ来ていただき相談に乗っていただいているが，特にスクールソーシャルワーカーの人数が足りていないと聞く。先生や保護者とは違う角度で話をしていただけるので，今後人数を拡充していただけるとありがたい。

【村上副会長】

新しい不安材料として，選挙権が１８歳に引き下げられることがある。PTA としても全国で研修会があるので，今後情報共有していき，しっかりと取り組んでいきたいと考えている。

自転車通学では，高額賠償責任を負わないよう保険加入と自転車マナーの啓発に取り組んでいかなければならないと考えている。

また，危険ドラッグやインターネットの世界から子どもを守るために，コンピュータを正しく使うことを教えていくことが必要であると感じている。

【門川市長】

本日いただいた意見の中で何を最優先して取り組んでいくかは教育委員会としっかりと協議し，決定していきたいと思う。

改めて感じていることは我々とみなさんの課題意識が全く同じだということ。総合行政の責任として，子どもたちの学び育ちにしっかりと取り組んでまいる。

和食文化の伝承も大事である。世界無形文化遺産に登録されたが，和食の基本は家庭での一汁三菜，だしの文化，家庭の味である。日本の和食，京料理の継承に取り組むには，世界に発信していくことが重要である。今年，京都とフィレンツェの姉妹都市５０周年の記念事業では和食を提供した。また，イタリアの首相も来ていただいたが人気がある和食で繋がることができた。

高校教育については，社会の要請に応えていくことが公教育の根源である。京都では日本で最初に工業高校，商業高校を設置した。それぞれの時代で一番大事なことを先人たちが取り組んでこられた。高校の新設は基本的に都道府県教育委員会の所管であるが，普通科系高校の創設について教育委員会と相談して進めていきたいと思う。

ブックスタートもすごく良い取組であるので，ご意見をお伺いしながら進めていけたらと思う。

京都に伝わる文化を育て，同時に世界にはばたける人材を育てるためには，英語を学んでいくことが大事だと感じている。京都市は全国に先駆けて小学校英語を実施してきた。日本語を学ぶことが先であるという声もあるが，英語を学べば，日本の文化の素晴らしさがわかる。「吾輩は猫である」を英語に訳すと「Ｉａｍ　ａ　cat」。「私はねこです」。この誇り高き「吾輩は猫である」のメッセージが英語では伝わらない。これを感じたときに日本の文化を大事にしていくことが，「国際人」「地域の達人」を育むことに繋がるのだと思う。

京都の子どもを「町衆」であり「国際人」として育んでいくため，京都の地域力・文化力・あらゆる力を出し合って取り組んでいきたいと思う。

１８歳選挙権の問題も非常に大事であると思う。民主主義社会の一番大事な根幹であるが，投票率が下がってきている。子どもたちは社会に関心を持たず，与えられている権利の重さを意識していない。戦後 70 年が経ち，平和の問題について関心を持ち，主体的に行動できるように教育委員会と連携して主権者教育を進めていかなければと感じている。ご意見を伺いながら進めていきたいと思う。

私が初めて中央教育審議会の委員等に就任したとき，様々な取組を勉強したが，そのほとんどを京都市では既に実践していた。ただ，おやじの会だけが無かった。そこでおやじの会をすぐに立ち上げていただいた。母子家庭が増えている時におやじの会ができた。わが子のおやじだけでなく，地域のおやじになろうと。男性だけでなく女性にも入っていただいており，大変ありがたい。そういうことが自然発生的に考えていただけるのが京都の強みである。これを仕組みにしていく。そして，多くの方に関心を持っていただくことが必要だと思う。

さらに健康長寿の取組である。今年４００人近くの方が１００歳を迎えられるという長寿社会が実現している。ありがたいことである。しかし，そのうちの半数の方が病院などの施設におられる。そのため，健康長寿の取組を進めていくことが重要である。

高齢者の方が元気に生活していただくためには，「教育」と「教養」が大事と聞いたことがある。その意味は，「教育」とは「今日，行くところがある」。「教養」とは「今日，用がある」。９２歳になっても１日にいくつも仕事がある，用がある。世のため人のためになることが最も健康長寿に繋がるとのことである。

皆様のご意見をしっかりと伺いながら，今後の取組に活かしてまいりたい。

【在田教育長】

貴重なご意見をお伺いできたと思う。ＰＴＡのみなさまから子どもの実態を踏まえての提言をいただき，これからの教育委員会の取組にしっかりと活かしてまいりたい。

また，みなさんの課題意識と京都市の課題意識が一緒だと感じ，心強く感じた。各学校の学校運営協議会では様々な企画を推進していただき，地域の方と繋がっておられる。そうした中で，教育委員会も一緒になって取り組んでまいりたい。

さらに，地域にあまり関わっていない方に対しては相互交流を行い，お互い必要なところを助け合うことで地域力も高めり，京都ならではの地方創生につながるのではないかと思う。これからも引き続きよろしくお願いしたい。